

橋場クラブは毎月第二月曜日に桃園区民活動センター和室で、食事会と歌を楽しんでいます。

クラブの歴史は区内でも古く、前身の「長寿を祝う会」が昭和37年に発足し、昭和43年に「橋場老人クラブ」と改称し、中野区老人クラブ連合会（現友愛クラブ）に加盟しています。

初代会長は石上兎一氏でした。橋場公会堂があった当時は皆さんが集まって料理を作っていました。現在では注文した

ももの木 第133回



月に一度のお食事会を開いています



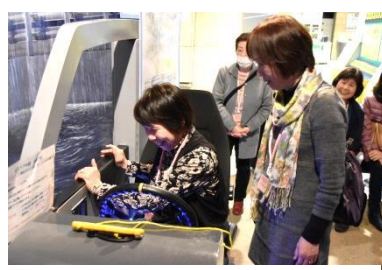
食事の後はみんなで歌います

お弁当を当番の人が会場で配っているそうです。「普段、会えない人に会えるから、楽しみです」「当たり前前の日常生活の中の変化を楽しんでいます」との声が聞かれ、あちこちで談笑の輪が広がっていました。食事の後、二時からは歌の時間：十年以上前から正しい発声法による健康をと講師を招いて行っています。「雪椿」「列れの一本杉」「島のブルース」等々、リクエストで曲を選び、全員が声を揃えて楽しそうに歌っていました。またこの日は、桃園地区町会・自治会連絡会が導入を検討している健康体操の機器も披露され盛り上がりしていました。活動はこの他に、中央公園での清掃、クリスマス会や芸能大会、誕生会なども行われています。現在、女性会員が多く、男性会員は少ないとのことですが、食事会と歌、楽しいこと請け合いです。気軽に参加してみたいかがでしょうか。（編集委員・N）

日赤桃園分団日帰り研修が3月29日(火)に開催されました。「日本赤十字社本社」の見学では普段は入る事のできない「特別会議室」を見学できました。情報コーナーでは最近の赤十字の活動について説明を受け理解を深める事ができました。両国で昼食をとり、清澄庭園を散策。最後に「本所防災館」では最新の機器による「震度7の体験」「水害体験」をしてきました。



日本赤十字本社の庭園で記念撮影！



30センチの「水深」で開かなくなるドアを体験しました！



震度7を体験...



押しても水圧でドアが開けられません...



東日本大震災の被災状況のビデオを鑑賞



日本赤十字本社「特別会議室」の見学



日本赤十字本社の情報コーナーで歴史と活動の説明を聞きました



第4回支えあいネットワーク会議が2月1日(火)に産業振興センターで開催され、「見守りの事例」からワークショップを行い、対応の仕方などを発表。今後の見守り活動の参考になる会議でした。



交通安全のつどいが2月29日(月)に開催され、中野警察署、青少年育成桃園地区委員会の人から「交通ルール」「子ども110番」などを、アニメやお話、ピーポクんのクイズなどで楽しく学びました。



桃園健康教室が2月25日(火)に開催され、野口栄子講師の指導で、自分で毎日続けられる体操と音楽に合わせた体操をしました。参加した皆さんからは「とても楽しく身体を動かせた」など大好評でした。



中野区赤十字奉仕団桃園分団の分団長に高見義一氏が就任されました

桃園分団の総会で土肥幸子分団長の勇退と高見分団長の就任について承認されました。長い間、桃園分団を率いてこられた土肥さんには、感謝の花束が贈呈されました。今年度から高見分団長(上町町会会長)のもと活発に日赤の活動をしています。

気持ちのよい町で暮らしたい！⑨

このコラムで取り上げているテーマは、資源回収、廃棄物の出し方、置き場所のルール、生活排水、雨水貯留など地域が課題を共有し主体的に行動することで気持ちの良い町になる提案です。

かつて小川を集めて作られた農業用水路だった桃園川の歴史をたどると、人口の増加とともに子どもたちの遊び場がなくなり、生活排水が流れ込んだり、水害防止のためコンクリート張りになった



昭和10年頃 橋場町附近の桃園川



昭和36年 護岸改修された桃園川



現在の桃園川緑道



中野区は平成23年に緑道15,219㎡を区立公園、平成26年に観光資源に指定しています

り、やがて「見えないほうがまし」のドブへと変わりました。東京都が昭和30年代後半に桃園川の暗きよ化・下水道への転用で順次コンクリートのふたを掛けました。平成6年には区が緑道に整備し、今では桃園地域の東西につないで春から初夏に掛けて近隣の庭先の梅、桜、町の有志「桃の仲間」が植えた桃、そして山吹、つつじ、ぼけ、ピラカンサ、紫陽花の色とりどりの花や緑を楽しめる身

近な植物園のようです。緑道の良いところは、行き交う人たちと自然と挨拶ができること。残念なのは、空き缶やゴミが植え込みに置き去りにされていることです。かつて自然の一部であった桃園川と人間の都合で下水道にしたことを切ない歴史と心に留めて、今ある気持ちのよい町の緑を大切にしたいものです。皆さんもぜひ散歩にお出かけください。（編集委員・K）